



市民総参加子ども育成運動

子どもへのまなざし運動特集

子どもへのまなざし100%のまちをめざして

子どもたちのふれあいの中で、お互いの心が通い合い、そして元気が出てきますよ。

「まなざし運動」って何??

シリーズⅡ 《企業等》

4つの場（家庭・地域・企業等・学校等）
『企業等の役割』とは？

〈子どもの勤労観・職業観を育む〉

企業等は、子どもたちにとって、「夢」と「希望」を抱かせる大切な役割を担っている

命

・働くことの意義を伝える
（職場見学を受け入れ、大人が働く姿を見せる）

自立

・子どもの自立を促す取り組みを推進する
（就業体験の受け入れ、企業を持つ知識・技術を学校や地域のために活かす）

他者へのかわり

・子育てしやすい職場の環境づくりを図る
（ノーマル残業の削減、子育てのための有給休暇・育児休暇取得促進）

子どもを取り巻く環境

・子どもを取り巻く環境に配慮する
（有害図書の販売、「子ども110番の家」に登録、子ども見守り活動に参加）

ドーン！太鼓がむすぶ地域との和

赤松子供太鼓

「バンドドーン・バンドドーン」

力強い太鼓の音が佐賀城公園の空に響き渡りました。
平成23年1月8日（土）「新春五社詣ウォーク」のはじまりです。

オープニングは佐賀市立赤松小学校の子どもたちが演奏する「佐賀城太鼓・赤松子供太鼓」です。赤松小では、クラブ活動に「太鼓クラブ」があり、4年生から6年生までの希望者15人が地域の人の熱心な指導を受けながら太鼓の魅力を体で感じつつ、メキメキ上達しています。

「子供太鼓」は夏まつりや運動会などにも積極的に参加して、地域の人とふれあう機会を多く持ち、素晴らしい関係が作られています。

今回、男子1人女子8人の子どもたちがほおを真つ赤に染めながら「組曲・ふるさと」を演奏しました。約600人の参加者から、見事なバチさばきに称賛の音が沸き上がり、大きな拍手が送られました。演奏を終えた子どもたちの顔は、達成感に満ちあふれ輝いていました。

これからも日本の伝統文化・和太鼓を通していろいろな事を学び体験しながら、健やかに成長してくれることでしょう。



まなざしリポーター 的野 勝

きらり！光る泥だんご作り

富士町古場

「わあ、光ってるよ。」差し上げた手のひらの泥だんご。お日さまの光でツヤツヤ、ピカピカと輝きを増します。12月4日（土）、師走とはいえ、昨日とは違って変わったばかりの陽気。

佐賀市富士町古場の七年庵での、「こぼこぼ祭り」。こぼこぼモチモチもち、めくめくぶた汁、ほつくほつくヤマメなどで子どもも大人も満腹になりました。

その屋下がり、子どもも大人も一緒になって、泥だんごを作り始めました。空き瓶の口で磨きます。泥だんご師匠のお言葉を励みに、夢中で瓶とだんごをこすり合わせます。泥だんごのくぼみやキズは入念に修繕。ピカピカ泥だんごを目指して、皆真剣なまなざしです。

同じ時間、同じ空間、同じ思いを分かち合いながら、世代を超えて作る泥だんご。なんとも奥深いだんご作りでした。



高木瀬校区まなざしリポーター

地域防災訓練 まなざし大声大会

本庄町

「お母さんやっほっほー」「平和ー」

「来年もがんばるぞー」

地域防災訓練と同時に、まなざし大声大会が開催されました。参加したのは、本庄町西寺地区の住民です。災害が起こった時、とにかく大声を出し、声を掛け合うことの大切さを体感してもらう目的です。この大声大会は子どもたちが受け付けや司会進行、音量測定、賞品渡しのすべてを運営しました。

講師として参加した消防士さんからも「日ごろ自分がどれだけ大声を出せるかを確認しておくことが大切です。この大声大会は、ほかではない企画で、すばらしい」と褒めの言葉もいただきました。

自治会長さんを始め、地域のみなさんと子どもたちが一緒になって防災のことを考える良い機会になりました。



まなざしリポーター 村岡 直子

本の読み聞かせ会「どんぐり」

北川副公民館

♪きよよこの夜、ライアーの優しく語りかけるような音色が、公民館の和室にゆつくりと広がっていき、12月の「どんぐりころころ」が始まりました。

お母さんの胸に抱っこされた赤ちゃん、お母さんの膝の上にチヨコンと座る2歳の男の子、その側には3歳のお兄ちゃん。

北川副公民館主催、本の読み聞かせ会「どんぐりころころ」は、毎月1回、未就園児を対象に開き、絵本の読みきかせや、季節の歌などを楽しんでいます。

参加者は「ここへ来て、子どもが本を読むようになってきました」「一人っ子なのでお友達ができなくて良かったし、親同志の情報交換もできる」と話し、公民館に来るのが楽しみになったそうです。

「子どもの成長が見られるのがいいですね。子どもの笑顔に接するときに一番の幸せ」とスタッフ一同。

南側に面したこの和室は、あたたかな日差しが入り、いつもほっこりとした空気に包まれています。

まなざしリポーター 新郷 典子



日本文化伝承祭

佐賀市歴史民俗館

「伝えたい和の心がここにあり」

平成22年9月23日（木）祝、佐賀市歴史民俗館において、津軽三味線高橋流など五団体が出演しました。

津軽三味線では、小さな子どもも参加して、自分の体より大きく、重さ8・5キロの三味線を独特の叩く手法で演奏します。なかでも小学1年生の男子3人は、5歳から始め、高校2年生の男子は、小学2年生の時に聴いた日本一の演奏を忘れることができず、小学3年生から始めました。これからも続けていき、できたら将来もこういいう仕事に携わりたいと語ってくれました。

勉強も大切ですが、日本文化を守っていく中で、きっと人間として大切なものを学んでくれると信じています。そのほかにも日本舞踊や、沖縄の踊りでも、力強い太鼓の響きと子どもたちの真剣な姿が心を打ちました。日本文化に幸あれ！

まなざしリポーター 田中 哲雄



問い合わせ

佐賀市教育委員会 教育総務課
子どもへのまなざし運動推進室

TEL 40・7354
FAX 40・7394